

株主通信

平成24年度報告書

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

第65期

- | | |
|--------------------|-----------|
| ● ご挨拶 | ● 連結決算の概要 |
| ● ピーエス三菱グループのCSR活動 | ● 単体決算の概要 |
| ● トピックス | ● 会社情報 |
| ● 完成工事（土木） | ● 株式情報 |
| ● 完成工事（建築） | |

井門高架橋上部工事（愛媛県）



CONTENTS

● ご挨拶	2
● ピーエス三菱グループのCSR活動	3・4
● トピックス	5・6
● 完成工事（土木）	7・8・9
● 完成工事（建築）	10・11・12
● 連結決算の概要	13・14
● 単体決算の概要	15・16
● 会社情報	17
● 株式情報	18

● 表紙の説明

愛媛県松山市と松山市外をつなぐ国道33号と、国道33号にアクセスする環状線は慢性的な交通渋滞にあり、その渋滞緩和対策として松山自動車道松山ICから松山空港・松山港を一本の道路でスムーズに結ぶ新しい幹線道路として松山外環状道路事業が着手されました。本工事はその事業路線である松山IC付近の高架橋として施工が行われました。

本橋梁は、橋長168mのポストテンション方式6径間連続中空床版橋です。架設支保工をもちいた場所打ち施工で、径間ごとに6分割にした分割施工を行いました。松山ICのアクセス箇所となるため、ランブ道路と接続することから、車線拡幅をふくんだ、広い幅員の橋梁となっております。



株主の皆様には格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

「株主通信」をお手元にお届けするに当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当連結会計年度における日本経済は、震災復興需要や政策効果の発現により夏場にかけて景気回復に向けた動きが見られました。しかし欧州債務危機を背景とした海外景気が減速したことにより輸出、生産をはじめとして国内経済が下降し景気が急速に弱含みの動きとなりました。こうした中で政権交代があり、政府は「強い経済」を取り戻すべく、大胆な金融政策・機動的な財政政策・民間投資を喚起する成長戦略の「三本の矢」の方針を打ち出し、これらに基づく緊急経済対策により景気回復への動きが次第に確実なものとなってきております。しかしながら未だに欧州信用不安等の懸念事項もあり、まだ楽観視できない状況が続いております。

建設業界におきましては、東日本大震災から丸2年が経過し、復旧・復興等の公共投資の取り組みが本格的となり、民間工事の発注も増えるなど建設市場に回復の兆しが見られます。また、政権交代による「国土強靱化」政策等に見られる公共工事主導への政策転換が行われ、官公庁工事を中心に建設投資が増加するなど、追い風となる可能性が見込まれますが、企業間の受注獲得競争は激しく、労務者不足による労務費を中心とした建設コストの高騰は、工事採算に大きく影響を及ぼしており、厳しい環境が続くものと思われまます。

このように建設業界を取り巻く環境は依然として厳しいものがありますが、日本のような地震国では、当社の得意とするPC（プレストレスト・コンクリート）構造物が耐震性に優れていることが多くの経験を経て実証され、全国各地の減災・防災対策の動きに対し、PC技術の適用範囲が一層広まりを見せております。これからの時代はイニシャルコストだけでなく、高品質、高耐久、長寿命化に優れた建築物が要求され、維持補修のメンテナンスを含めたトータルコストの優位性が社会に認められつつあります。また、震災復興工事が本格化すれば、労務者不足、労務費高騰、生コン・骨材の資材不足や工期短縮の必要性もあり、プレキャスト部材の活用が大変有効と思われ、今後においては全国にプレキャスト製品工場を有している当社グループの優位性が発揮されることが期待されます。

平成24年度の業績は不本意な結果となりましたが、平成25年度は再び「黒字化とステップアップ」と「企業体質の強化」の目標に向けて社員一丸となって取組んでまいります。配当につきましては、普通株式1株につき、2円50銭の期末配当を実施させていただきます。

当社の使命は自然災害に強い国土を造って将来に残すことであり「国土強靱化」政策に対して当社グループが活躍出来る分野は数多くあります。コンプライアンスを徹底して健全経営に努め「企業の社会的責任」を果たしながら、建設業という本業をとおしての積極的な社会貢献を行ってまいりたいと存じます。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

災害に強い新たな街づくりに貢献

代表取締役社長
社長執行役員

勝木 恒男





ピーエス三菱グループのCSR活動

当社グループは、平成22年度より全ての委員会（本社委員会・支店委員会・関係会社各社委員会）が同じCSR目標を掲げることで、日常業務におけるCSRの意識向上に努めてまいりました。

3年目にあたる本年度も、各委員会のベクトル合わせとステップアップを図るために、継続して同じ目標を掲げてPDCA（計画・実行・評価・改善）を実践することで、さらなるCSR活動の充実を目指して取り組んでまいりました。

平成24年度CSR目標

- 有効な内部統制システムによるマネジメントの実践
 - ・ リスクマネジメントの強化
 - ・ コンプライアンスの徹底
- ステークホルダーコミュニケーションの実践
 - ・ CS（お客様満足度）の追求
 - ・ 取引先と取り組むCSR活動
 - ・ 株主とのコミュニケーション拡充
 - ・ 働きがいのある安全な職場環境の構築
 - ・ 地域社会への貢献活動の推奨

昨年度までの25項目の推進活動項目については、より現場に即した評価対象として捉えることを目的に、顕在化したリスクと既に周知されたリスクに対して、評価対象項目の追加並びに表現の修正を行い、27項目といたしました。

この推進活動項目について、四半期ごとに各部署が自己評価を行い、本社・支店・関係会社各CSR委員会でこれらを審議・評価し、浮かび上がった課題について随時改善を行ってまいりました。

リスクマネジメント推進活動

リスクマネジメント推進活動において、部署ごとに以下のリスクに対しリスクマネジメント推進活動報告書を作成し、リスク対策を立て四半期ごとに実施状況をCSR推進活動評価表に記載し、PDCA（計画・実行・評価・改善）を実践することで、リスクの回避、発生確率の低減、および被害規模の低減を図ってまいりました。

- ・ 厳しい受注環境におけるノルマ達成のために生じるリスク
- ・ 工事施工における各種リスク
- ・ 不祥事等が職場内で埋没するリスク

また、BCP（事業継続計画）活動の一環として以下の訓練を実施してまいりました。

- ・避難訓練 本社・東京土木・建築支店合同 11月9日 大阪支店 11月13日



- ・安否確認訓練 全社 3月27日

コンプライアンス推進活動

- 当社グループでは、毎年10月を企業倫理月間と定め、従業員の法務スキルの向上、コンプライアンス違反判例を教本として従業員全ての倫理意識向上を目指し、様々なコンプライアンス活動を実施しております。
 - ・合同コンプライアンス研修会 10月17日
 - ・コンプライアンス誓約書および談合不関与誓約書の提出
 - ・コンプライアンスブック理解度確認テスト（e-ラーニング）
 - ・人権研修 12月10日

コミュニケーション推進活動

- 現場作業所における社会貢献活動
工事現場に近接する小学校の児童を招待し、現場見学・体験学習を開催いたしました。
体験学習を通じて児童たちの土木工事に対する興味・関心を高めるとともにコミュニケーションが良く図られ、小学校から感謝状をいただきました。
(美山北道路建設工事 作業所)



- CSR報告書2012
ステークホルダーの皆様へ当社のCSR活動に関する情報をご覧いただくため、当社ホームページにCSR報告書を掲載しておりますのでご一読ください。
(ホームページアドレス：<http://www.psmic.co.jp/>)





PCグラウト充てん不足部補修「リパッシブ工法」

近年、ポストテンション方式の既設PC橋において、グラウト充てん不足が原因で生じるPC鋼材の腐食が散見され問題となっております。当社では他社に先駆けて、シーす内へ亜硝酸リチウム水溶液を注入することで確実に腐食を抑制することを特徴の一つとする「リパッシブ工法」を開発いたしました。昨年度には実際のPC橋2橋に施工を行い、更に国土交通省の新技术情報提供システム「NETIS」に新技术として登録されました。今後は、PC橋の健全性の確保と長寿命化を実現する上で必要不可欠な当社オリジナル技術として、営業展開を図る予定です。

本工法は、神戸大学大学院 森川英典教授との共同開発工法です。



施工橋梁



PC鋼材の腐食事例



施工状況（亜硝酸リチウム水溶液注入状況）

フライアッシュを用いたプレキャストPC桁の実用化

当社は環境に優しく長寿命化が期待できる環境負荷低減型高耐久プレキャストPC桁の実用化を進めております。石炭火力発電所で石炭を燃焼する際の副産物であるフライアッシュ（燃焼灰）や溶鉱炉で銑鉄を製造するときに発生する副産物である高炉スラグ微粉末はPC桁の耐久性向上に有効な混和材料です。環境負荷低減型高耐久プレキャストPC桁は、早強ポルトランドセメントの一部をこれらの混和材料で

置換したコンクリート材料を用いて製造いたします。当社はこれまで、フライアッシュを用いたコンクリートの塩分遮断性、アルカリシリカ反応の抑制および物質移動抵抗性などの試験を行い、従来のコンクリートと比較して品質が向上することを確認していました。そしてこの度、フライアッシュを用いたプレキャストPC実桁の載荷試験を実施し、良好な結果を得ることができました。今後は今回の試験結果を踏まえ実用化に向けた取り組みを加速してまいります。



プレテンション方式PC桁の製作



プレテンション方式PC桁の載荷試験

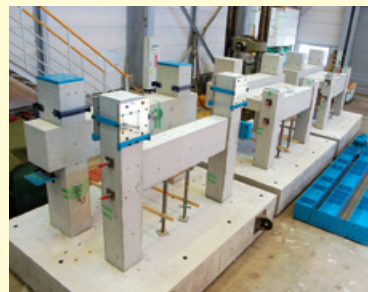
ピーエス三菱PCaPC外付けフレーム耐震補強工法の適用範囲の拡大

「ピーエス三菱PCaPC外付けフレーム耐震補強工法」は、平成16年12月に(財)日本建築防災協会より耐震性を向上できる補強工法として技術評価を受けて以来、約80棟の耐震補強の実績を重ねてきました。この度、同工法の適用範囲を拡大するために構造実験を実施し、低強度領域（ $F_c \geq 13.5 \text{ N/mm}^2$ ）の建物まで補強を可能といたしました。また、高層の建物にも適用を可能にするとともに、現状の設計施工指針を大幅に改良し技術評価内容を改定いたしました。

今後も耐震補強を推進していくことで積極的に社会資本の維持に取り組んでいく予定です。



ピーエス三菱PCaPC外付けフレーム耐震補強工法



PCaPC外付けフレーム実験供試体



中部横断一色川橋上部工事（山梨県）

中部横断自動車道は、静岡県静岡市を起点に、山梨県甲斐市を經由して長野県小諸市に至る延長132kmの高速自動車道路です。中部横断自動車道が整備されることにより、現在整備が進められている新東名高速道路をはじめ、中央自動車道、上信越自動車道も接続され、日本海および太平洋の臨海地域と長野・山梨県との連携・交流を促進するとともに、沿岸の方々が安心して暮らせるネットワーク構築、物流体系の確立や広域的観光ゾーンの開発・支援等に寄与するものと期待されております。

本工事は、中部横断自動車道の南巨摩郡身延町一色地先における、橋長約130mのコンクリート橋です。中央の橋脚から、ワーゲンをを用いて左右に延ばす方法で架設し、製作する桁の長さは1ブロックあたり3～4mで、1ブロックの製作に約10日間に要しました。橋台まで以上の工程を16回繰り返し、竣工いたしました。



宮崎西環状線 松橋工区 跡江川橋 橋梁上部工事（宮崎県）

本工事は、宮崎市芳土の国道10号から同市中村の国道220号に至る約15.5kmの主要地方道「宮崎西環状線」の起点側に位置しております。宮崎西環状線は、宮崎市中心部の渋滞緩和や宮崎市周辺部から宮崎空港、宮崎ICなどの交通拠点へのアクセス向上を図る路線で市街地西側の外環状道路として整備されており、本工区が完成することにより、渋滞緩和や利便性向上が期待されております。

本橋は、橋長227m、幅員22m（車道3.25m×4、歩道3.5m×2）のPC5径間連結少主桁橋であり、1級河川大淀川水系跡江川および市道を横断します。施工においては、平成24年3月に工事を着手し、国内最大級の架設門型クレーンを使用することで、架設作業の安全性および効率の向上を図りました。架設完了後、付属物の施工を経て平成25年3月に完成いたしました。



東風平高架橋上部工（下りA1～P6）工事（沖縄県）

東風平（コチンダ）高架橋は、那覇空港と沖縄自動車道を結び、豊見城東道路の一部区間であり、一般国道の自動車専用道路です。架橋地点は、沖縄本島の南側で八重瀬町に位置し、八重瀬岳一帯は琉球石灰岩が分布する台地で、この大部分をサトウキビ畑が占め、その中に集落が点在する、のどかな地域です。

本工事は、橋長180m、幅員10.6mのPC6径間連続中空床版橋で、工期が13ヶ月の工事でした。施工は、全体を概ね3分割に分け、2径間ずつを固定式支保工にて施工いたしました。沖縄県は、他県に比べ台風の上陸が多いことで知られておりますが、本工事期間中は例年になく台風が多く発生し、供用中の道路と近接しているため、安全上の対策について、十分なリスク管理が必要とされました。作業所関係者全員が高い安全意識をもって、工事に従事したことにより、平成24年10月末に無事故・無災害で完工いたしました。





豊見城高架橋（下りA1～P7）工事（沖縄県）

本工事は国道331号小禄バイパスに直結している沖縄県豊見城市の豊見城・名嘉地ICから、南風原道路の南風原南ICまでの豊見城東道路約6kmの一部で、現在供用されている暫定2車線を4車線化する橋梁上部工工事です。橋長205m、幅員9.0mの7径間連続PC中空床版橋で、固定支保工式架設工法にて平成25年3月末に完成いたしました。この道路は将来、沖縄自動車道および南風原道路と一体となって沖縄本島北部、中部、南部および那覇空港間の定時性・高速性を確保することにより、那覇市内の交通混雑の緩和、観光や地域振興に寄与するものと大いに期待されております。



宜野湾浄化センター汚泥消化タンク築造工事（その2）（沖縄県）



みずクリン宜野（ギノ）湾は沖縄県中部流域の下水処理場であり、沖縄本島の人口が集中している西海岸沿いの宜野湾市に位置しております。

本工事は、みずクリン宜野湾に計画される下水処理施設のうち、有効容量6,700 tの卵形汚泥消化タンクの築造工事であり、本体構造の赤道より上部（白色部分）について施工いたしました。

使用した型枠は、オーストリアRSB社により開発された円形構造物専用のもので、鋼製円形フレームの剛性で

内外独立して側圧に抵抗するため、セパ等の貫通部材を使用いたしません。また、1ブロック約5.0mで施工可能なことから、打継ぎ箇所が少ない水密性・気密性に対して有利な工法となっております。

みずクリン宜野湾では最終的に4基のタンクが計画されており、今回の施工は最初の1号タンクであります。工事は平成24年4月に着工し、平成25年3月に完工いたしました。



三菱電機株式会社福山製作所 スマートメーター生産棟（広島県）

三菱電機福山製作所は、広島県福山市の中心部に位置し、主に遮断器、電力量計などの計測機器を生産しています。

本生産棟は当社設計施工による鉄骨造・地上4階建て・延床面積4,200㎡のスマートメーター（電子式電力量計）専用工場で、部品投入からキーパーツおよび製品組立・出荷までを一貫生産する工場です。

また、屋根・壁面の断熱性を向上させ、消費電力の少ないLED（発光ダイオード）照明や空調機器を導入し、環境に配慮した省エネモデル工場となっております。



エクセラ湘南（神奈川県）



本物件は、JR大船駅から徒歩7分、総合病院、大学、芸術ホール、ショッピングセンターなどが近接する至便な立地に建設されました。平成21年のⅠ期工事（住戸48戸）に続くⅡ期工事として1・2階にオフィスと店舗、3～6階に住戸32戸を増築し、総戸数80戸のマンションです。賃貸マンションでありながら、分譲マンションのクオリティにこだわったエクセラ湘南は、LED照明や太陽光発電など、先進の環境技術を取り入れ、省エネ・地球環境に配慮した建物となっております。



兵庫県立淡路医療センター（兵庫県）

※PC躯体工事

淡路島の中心、洲本市にある県立淡路病院の老朽化や狭隘化の解消、医療技術の進歩や医療ニーズの変化への対応などを目的に、「兵庫県立淡路医療センター」として建替え工事が行われました。災害時、淡路島の拠点病院として医療機能を維持するため免震構造を採用し、地上8階建て、延床面積33,965.85㎡を免震構造と相性の良いPCaPC（プレキャストプレストレストコンクリート）造としています。



当社はPC躯体工事を一式で請負い、子会社であるピー・エス・コンクリート㈱で製作した総重量約25,200 tのPC部材を現地に組み立てを行いました。建物は横に広く、桁行方向で最大約104mもありますが、中間ブロック梁を設けることでPCケーブルによる組み立てを可能といたしました。大型クレーンを3基配置しての同時施工により短工期も実現しております。

東広島市新庁舎（広島県）

※PC躯体工事

本物件は、これまで分散されていた本庁機能を同じ建物内に集約することで、市民の利便性を高めるために建設されました。1階の窓口ゾーンには喫茶コーナー、最上部の10階には展望ロビーや食堂を設けることで市街地の賑わいづくりという役割も期待されております。また、免震構造と相性の良いPCaPC（プレキャストプレストレストコンクリート）造を採用することで、災害時の拠点としての機能と、将来の変化にフレキシブルに対応できる内部空間を実現しています。



当社はPC躯体工事を一式で請負い、子会社であるピー・エス・コンクリート㈱で製作した総重量約8,700 tのPC部材を、現地に短工期で組み立てました。PCaPC造であることから施工中の騒音・振動を低減でき、環境に配慮した施工を行うことができました。

当社はPC躯体工事を一式で請負い、子会社であるピー・エス・コンクリート㈱で製作した総重量約8,700 tのPC部材を、現地に短工期で組み立てました。PCaPC造であることから施工中の騒音・振動を低減でき、環境に配慮した施工を行うことができました。

掛川市津波避難施設（静岡県）

※PC躯体工事

静岡県掛川市は、東海地震による津波に備えた津波避難施設を“国内初”のPCaPC（プレキャストプレストレストコンクリート）工法により、2基建設し、当社はPC工事を一式で請負いました。避難デッキ部分は海拔15m、収容人数は菊浜地区約400名 今沢地区約250名（1㎡当たり2～3人）の規模です。

東日本大震災では、船や自動車が流され建物等の柱に衝突する被害が起きました。今回の津波避難施設は、PCaPC工法の採用により柱の本数を減らし、漂流物の衝突による被害の回避・低減ができます。また、工場製作により高品質な製品の提供および現場作業期間の短縮が可能となりました。更に、鉄骨に比べて塩害に強い高耐久な津波避難施設を実現することもできました。



今沢津波避難施設

クレストフォルム北赤羽Ⅱ（東京都）

本物件は、地上18階建て、全238戸のビッグプロジェクトで、マンションの魅力のひとつである共用施設にこだわった意匠設計が特長です。

住宅棟3棟、共用棟2棟は、敷地面積の約1/3で、他は共用・緑地面積、敷地内駐車場100%と都内では希な配置計画となっております。

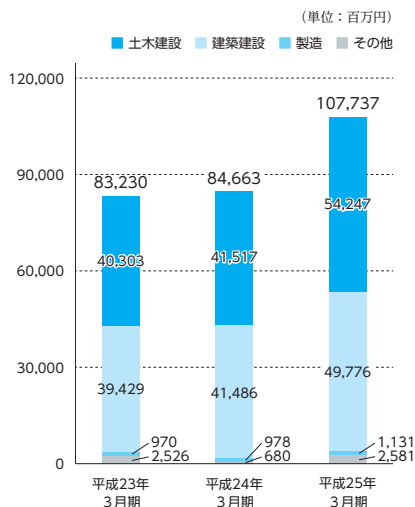
特長のある共用部分は、ヨーロッパの宮廷をイメージしたアプローチからエントランスの前庭に植栽のゲートと噴水が配置され、幾何学的にデザインされたホテルのロビーを思わせるエントランスホールと、美術館のような佇まいの3つのラウンジを併設しております。また、安心して子供たちを遊ばせることができるキッズガーデンや中庭に面した開放的なフィットネスアリーナを完備する等、充実した共用設備となっております。



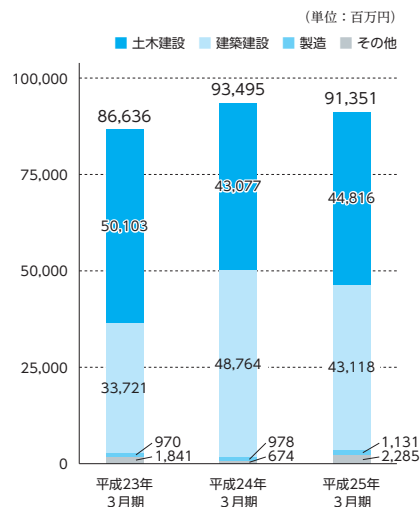


連結業績ハイライト

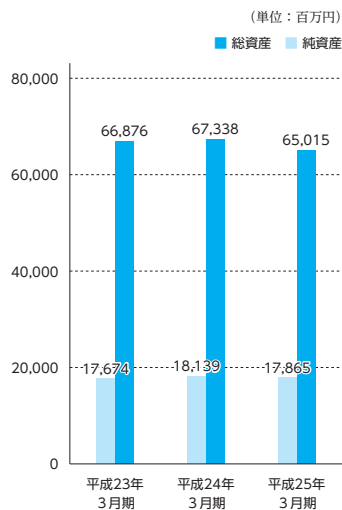
受注高（セグメント別）



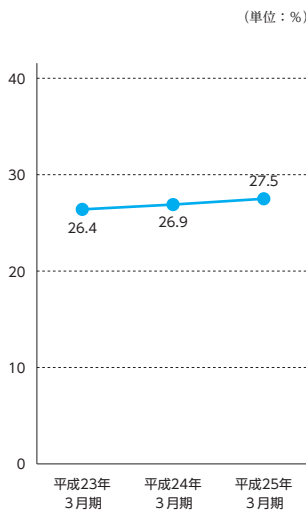
売上高（セグメント別）



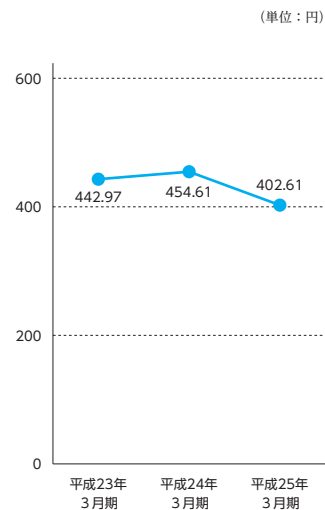
総資産／純資産



自己資本比率



1株当たり純資産



貸借対照表要旨（連結）

（単位：百万円）

	前期末 平成24年3月31日現在	当期末 平成25年3月31日現在
流動資産	52,188	49,258
固定資産	15,149	15,757
有形固定資産	12,244	12,259
無形固定資産	35	36
投資その他の資産	2,869	3,460
資産合計	67,338	65,015
流動負債	43,760	41,367
固定負債	5,437	5,782
純資産	18,139	17,865
負債・純資産合計	67,338	65,015

損益計算書要旨（連結）

（単位：百万円）

	前 期 平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで	当 期 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで
売上高	93,495	91,351
売上原価	86,663	84,862
売上総利益	6,832	6,489
販売費及び一般管理費	6,343	6,255
営業利益	488	233
経常利益	230	152
当期純利益又は当期純損失（△）	728	△ 244

株主資本等変動計算書（連結） 平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

（単位：百万円）

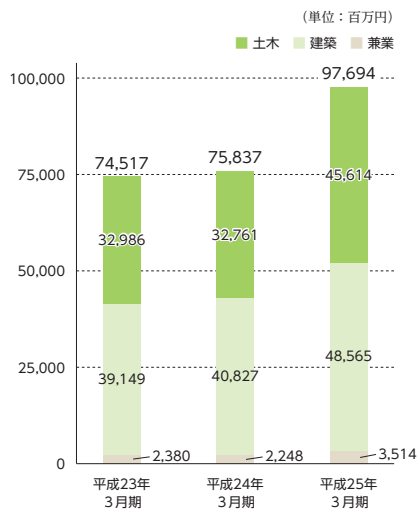
	株 主 資 本					その他の包括利益累計額				少 数 株 主 持 分	純 資 産 合 計
	資本金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自己株式	株 主 資本合計	その他有価証券評価差額金	土地再評価差 額 金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	4,218	8,110	4,435	△ 60	16,704	89	1,560	△ 215	1,434	0	18,139
当期変動額											
剰余金の配当			△ 81		△ 81				－		△ 81
当期純損失（△）			△ 244		△ 244				－		△ 244
自己株式の取得				△ 0	△ 0				－		△ 0
自己株式の処分		△ 0		0	0				－		0
自己株式の消却		△ 22		22	－				－		－
その他資本剰余金の負の残高の振替		22	△ 22		－				－		－
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					－	86	－	△ 34	51	0	51
当期変動額合計	－	－	△ 348	22	△ 325	86	－	△ 34	51	0	△ 274
当期末残高	4,218	8,110	4,087	△ 38	16,378	175	1,560	△ 250	1,486	0	17,865



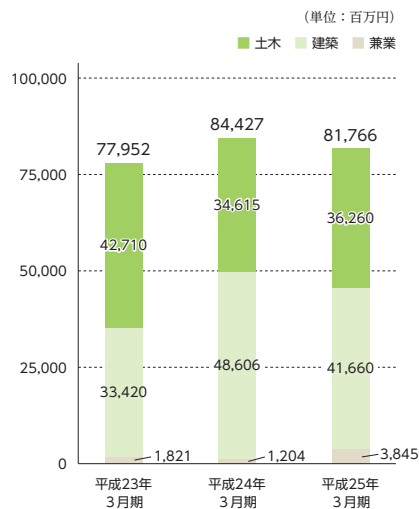
単体決算の概要

単体業績ハイライト

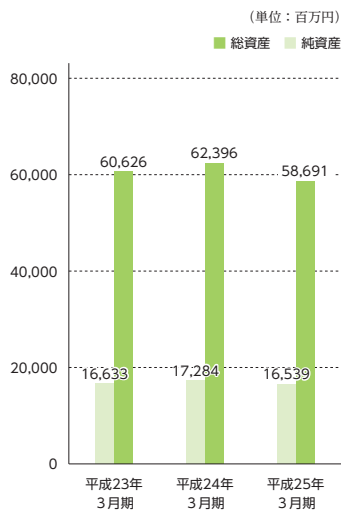
受注高（セグメント別）



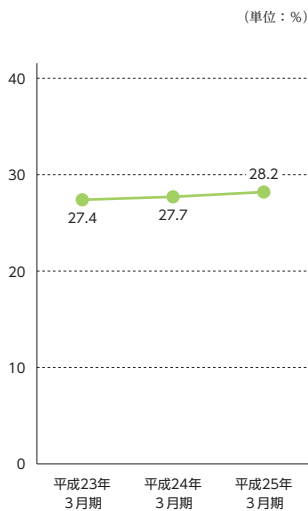
売上高



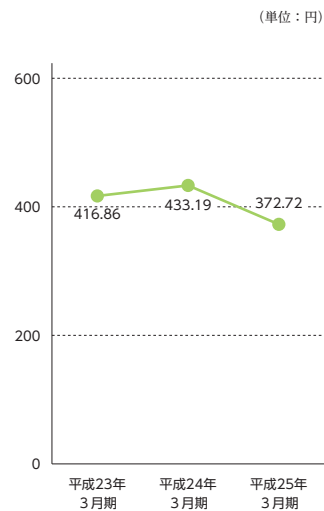
総資産／純資産



自己資本比率



1株当たり純資産



貸借対照表要旨（単体）

（単位：百万円）

	前期末 平成24年3月31日現在	当期末 平成25年3月31日現在
流動資産	48,043	43,839
固定資産	14,353	14,851
有形固定資産	9,928	10,063
無形固定資産	28	28
投資その他の資産	4,396	4,760
資産合計	62,396	58,691
流動負債	40,020	36,727
固定負債	5,091	5,424
純資産	17,284	16,539
負債・純資産合計	62,396	58,691

損益計算書要旨（単体）

（単位：百万円）

	前 期 平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで	当 期 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで
売上高	84,427	81,766
売上原価	79,089	77,178
売上総利益	5,337	4,588
販売費及び一般管理費	5,207	5,274
営業利益又は営業損失（△）	129	△ 685
経常利益又は経常損失（△）	427	△ 594
当期純利益又は当期純損失（△）	498	△ 749

株主資本等変動計算書（単体） 平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

（単位：百万円）

	株主資本								評価・換算差額等				純 資 産 計 合
	資 本 金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本合計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	土 地 再 評 価 差 額 金	評価・換算差額等合計		
		資 準 備 金	そ の 他 資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金繰越利益剰余金	利益剰余金合計							
当期首残高	4,218	8,110	－	8,110	3,364	3,364	△ 60	15,633	90	1,560	1,651	17,284	
当期変動額													
剰余金の配当				－	△ 81	△ 81		△ 81			－	△ 81	
当期純損失（△）				－	△ 749	△ 749		△ 749			－	△ 749	
自己株式の取得				－		－	△ 0	△ 0			－	△ 0	
自己株式の処分			△ 0	△ 0			－	0	0		－	0	
自己株式の消却			△ 22	△ 22			－	22	－		－		
その他資本剰余金の負の残高の振替			22	22	△ 22	△ 22	－	－			－	－	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				－		－		－	85	－	85	85	
当期変動額合計	－	－	－	－	△ 853	△ 853	22	△ 830	85	－	85	△ 745	
当期末残高	4,218	8,110	－	8,110	2,511	2,511	△ 38	14,802	176	1,560	1,737	16,539	



◆商 号 株式会社ピーエス三菱
P.S. Mitsubishi Construction Co., Ltd.

◆設 立 昭和27年3月1日

◆資 本 金 4,218,500,000円

◆従業員数 単体：1,056名
(平成25年3月31日現在)

連結：1,499名

◆本社・支店 (平成25年4月1日現在)

本 社 〒104-8215
東京都中央区晴海二丁目5番24号
(03) 6385-9111

東京土木支店 〒104-8572
東京都中央区晴海二丁目5番24号
(03) 6385-9511

東京建築支店 〒104-8572
東京都中央区晴海二丁目5番24号
(03) 6385-9611

東 北 支 店 〒980-0811
宮城県仙台市青葉区一番町一丁目8番1号 東菱ビル
(022) 223-8121

名 古 屋 支 店 〒460-0002
愛知県名古屋市中区丸の内一丁目17番19号 キリックス丸の内ビル
(052) 221-8486

大 阪 支 店 〒530-6027
大阪府大阪市北区天満橋一丁目8番30号 OAPタワー
(06) 6881-1170

広 島 支 店 〒730-0036
広島県広島市中区袋町4番25号 明治安田生命広島ビル
(082) 240-7011

九 州 支 店 〒810-0072
福岡県福岡市中央区長浜二丁目4番1号 東芝福岡ビル
(092) 739-7001

◆役員 (平成25年6月26日現在)

取締役および監査役

代表取締役社長	勝 木 恒 男
代表取締役副社長	杉 本 武 司
代表取締役副社長	田 中 哲
取 締 役	森 拓 也
取 締 役	権 藤 智 丸
取 締 役	山 本 晶 彦
取 締 役	藤 井 敏 道
取 締 役	鳥 井 博 康
取 締 役	湊 高 樹
常 勤 監 査 役	森 岡 一 彦
常 勤 監 査 役	井 岡 幹 雄
常 勤 監 査 役	松 尾 潔

(注) 取締役藤井敏道、鳥井博康、湊 高樹の3氏は社外取締役であります。

監査役森岡一彦、井岡幹雄の両氏は社外監査役であります。

執行役員 (※は取締役兼務)

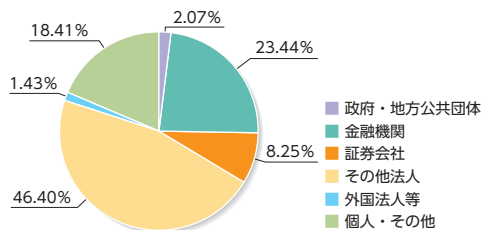
※ 社長執行役員	勝 木 恒 男
※ 副社長執行役員 (土木本部長)	杉 本 武 司
※ 副社長執行役員 (社長補佐・建築関係担当)	田 中 哲
※ 常務執行役員 (技術本部長・安全品質環境担当兼海外事業担当)	森 拓 也
※ 常務執行役員 (管理本部長兼総務人事部長・CSR担当)	権 藤 智 丸
常務執行役員 (大阪支店長)	蔵 本 修
※ 執 行 役 員 (建築本部副本部長)	山 本 晶 彦
執 行 役 員 (建築本部長)	小 長 光 公 和
執 行 役 員 (大阪支店副支店長)	伊 藤 博 通
執 行 役 員 (建築本部副本部長)	戸 潤 隆
執 行 役 員 (東京土木支店長)	塚 原 明 彦
執 行 役 員 (土木本部副本部長兼原子力室長)	鈴 木 義 晃
執 行 役 員 (土木本部副本部長兼土木部部長兼土木営業部部長)	久 保 充 彦



株主情報 (平成25年3月31日現在)

- ◆発行可能株式総数 11,000万株
- ◆発行済株式の総数 44,441,587株
- ◆株主数 7,893名

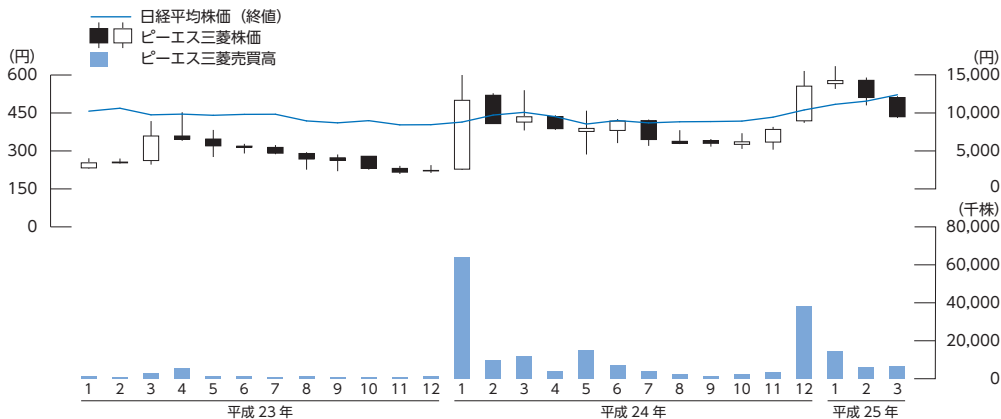
◆所有者別株式保有状況



◆大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	議決権比率
三菱マテリアル株式会社	15,860,354株	35.79%
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 太平洋セメント口再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	4,491,300	10.13
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	2,533,700	5.72
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,998,061	4.51
(内 A種類株式)	(1,307,871)	(2.95)
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,992,667	4.50
(内 A種類株式)	(1,736,571)	(3.92)
住友電気工業株式会社	1,834,800	4.14
岡山県	839,740	1.89
三菱地所株式会社	496,000	1.12
日本証券金融株式会社	433,900	0.98
ピーエス三菱従業員持株会	423,595	0.96

◆日経平均株価・株価・売買高の推移 (東京証券取引所)



株主メモ

■事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
■定時株主総会	6月
■同総会議決権行使株主 確定日	3月31日
■期末配当金受領株主 確定日	3月31日
■中間配当金受領株主 確定日	9月30日
■公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.psmic.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)
■株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
■同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel 0120-232-711 (通話料無料)
■上場証券取引所	東京証券取引所
■単元株式数	100株

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社など）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



コーポレートマーク

生命の神秘である植物の発芽がモチーフです。発芽は、力強い成長を意味し、新分野・新領域の開拓を表現しています。

また、オレンジが大地（＝土木）、ブルーが空（＝建築）、全体で地球をイメージして、自然と共生する企業を具象化しています。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォ
ントを採用しています。



この印刷物は、有機溶剤等を使用しない環境にやさしい「水なし印刷」で印刷し、「ベジタブルインキ」を使用しております。また、針金を使わずに製本しております。